

# 障がい者スポーツ特別研修会を開催！

主催：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

サントリーホールディングス株式会社

日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）10：30～15：00

会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

SUNTORY

公益社団法人  
日本フィランソロピー協会

この研修会はサントリーのチャレンジド・アスリート奨励金を活用しております。

## 東京 2020 は地域に何をもたらすのか？

皆さんもメディアにおける東京 2020 の盛り上がりを感じているのではないのでしょうか。障がい者アスリートが登場する TV コマーシャルは、ほぼ毎日放映されています。では、東京 2020 は、皆さんの地域にいる障がいのある方にどのような効果をもたらすのでしょうか？このことについて考える機会を作りたいというのが、今回の企画理由の 1 つでした。

## 基調講演：「障害者スポーツ界のレジェンド」～ストローケンデル先生

講師にはドイツからホルスト・ストローケンデル氏をお招きしました。同氏は、車いすバスケットボールのクラス分けのシステムを提唱し、その考えが様々なスポーツのクラス分けの基礎となり、競技スポーツの発展に寄与した権威です。講演では、障がいのある方々にとって、スポーツがいかに重要な役割を果たしてきたかを障がい者スポーツの歴史と合わせて説明いただきました。また、競技レベルのスポーツの普及は、底辺の拡大につながることを指摘。これは、現場において、障がい当事者や家族、支援者たちと正面から向き合い、目の前にいる人のために全力を尽くす姿勢を貫いてきたからこそ言えることかもしれません。



## パネルディスカッション：誰もが当たり前前にスポーツを楽しむことができる社会の実現に向けて

基調講演に続き、5 名のパネリストをお招きし、パネルディスカッションを行いました。コーディネーターを務めていただいた日本体育大学体育学部教授の野村一路氏は、障がいの有無を問わず生涯スポーツ振興のご意見番として、行政・学校・各種団体等の施策・活動に深く関わっていることからご存知の方も多いと思います。

さて、パネリストの発表内容について簡単に紹介いたします。日本福祉大学スポーツ科学部助教の兒玉友氏より、「我が国の障がい者スポーツ振興の動向について」、前職である障がい者スポーツセンター、文部科学省、スポーツ庁での勤務経験を踏まえて説明。日本卓球バレー連盟副会長兼普及委員長の堀川裕二氏からは、「ユニバーサルスポーツ・卓球バレー」を活用したスポーツ参加枠の拡大とこれまでの常識外の連携・協力の広がりについて。ストローケンデル先生の講演の通訳も務めていただいた一般社団法人コ・イノベーション代表理事の橋本大佑氏からは、「東京 2020 が目指す共生社会」をテーマに共生社会を目指す上で核となる「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」について。サントリーホールディングス株式会社 CSR 推進部長の坪松博之氏からは、これまで行ってきた CSR（社会貢献活動）に加えて、震災とオリパラ招致をきっかけに取組むこととなったチャレンジドスポーツ（障がい者のスポーツ）支援の取組みについて。一般社団法人まるごと陸前高田理事の伊藤雅人氏からは、震災により甚大な被害を被った陸前高田市が復興の柱として掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり」とともに、非営利団体として取組む「障がい者スポーツの聖地・陸前高田市」について。以上が発表の概要です。

その後、活発なディスカッションが行われ、様々な課題や解決の方向性について意見交換を行いました。誰もが当たり前前にスポーツを楽しむためには「共生社会」という考え方はとても重要です。「共生」の対象となるのは、障がいのある方だけではなく、年齢・性別を問わずすべての方が含まれていること。そして、一方的な支援だけではなく、行政、企業、非営利団体等が共に置かれている立場を理解することから始め、共に支え合うためにどのような行動するかなど多くの示唆に富んだ内容となりました。

